

第2回審議会に向けての事前質問に対する各施策担当部局からの回答

No.	施策コード	事前質問内容	各施策担当部局からの回答																
1	1-2在宅医療	<p>成果指標の「多職種間連携の意識」について、R3実績が33%とありますが、何人に対して何人の割合で算出されたのでしょうか。</p> <p>また、在宅医療に関して、市からの啓発はどのようなことをされていますか。</p>	<p>ケアマネジャーや訪問看護師等の専門職131人に対して、43人の割合（32.8%）で算出しています。</p> <p>在宅医療に係る「在宅患者サポート事業」のお薬手帳カバーについて、行政チャンネルや広報いがで特集を行ったり、市のイベントへのブース開設により周知・啓発を行っています。</p>																
2	3-4中心市街地活性化	<p>成果指標の中心市街地の人口社会増についてR3は実際は何人増えて何人減ったという結果マイナス6人になったのでしょうか。</p>	<p>第2期中活計画（計画期間：R2～R4）にもとづき、令和2年度からの増減値を成果指標としています。</p> <p>社会増減の内訳は下表のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>社会増</th> <th>社会減</th> <th>社会増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R2</td> <td>469人</td> <td>442人</td> <td>27人</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>442人</td> <td>475人</td> <td>△33人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>911人</td> <td>917人</td> <td>△6人</td> </tr> </tbody> </table>		社会増	社会減	社会増減	R2	469人	442人	27人	R3	442人	475人	△33人	合計	911人	917人	△6人
	社会増	社会減	社会増減																
R2	469人	442人	27人																
R3	442人	475人	△33人																
合計	911人	917人	△6人																
3	3-4中心市街地活性化	<p>城下町の佇まいを守り住み良い住環境の整備によりまちなかへの居住、起業を生み出す市街地整備の取り組みですが、赤井家住宅の整備活用でのにぎわい創出に効果をもたらす相乗効果として起業された、また検討へと繋がっているのでしょうか。</p> <p>居住環境としてはまちなかの空き家活用とも連携されているのでしょうか。</p>	<p>街なみ環境整備事業により平成26年に開設した赤井家住宅は、城下町の佇まいを代表する建築物として、市内外を問わず展示、体験、交流事業で幅広く活用され、にぎわい創出の効果が着実に出ています。展示や体験された方で独立や起業されたかどうかは不明ですが、赤井家でのワークショップを通じて検討された方はいると思われます。</p> <p>良好な住環境、景観を保全するべく道路美化事業等を実施しており、空き家活用も中心市街地活性化計画の主要事業に「古民家等再生事業」を位置付けており連携しています。</p>																

4	3-4中心市街地活性化	<p>指標の空き店舗等活用件数と3-6就業・起業の指標の起業数との関連性について。3-6の起業数に中心市街地エリアでの起業は含まれているのでしょうか。含まれている場合、基本事業において連携がなされ空き店舗の解消及び創業意欲を向上させそれぞれ成果が出ていると考えられますが、それらの相乗効果についてどのように評価されているのでしょうか。</p>	<p>3-6の起業数に中活エリア分は含まれていません。 中心市街地活性化基本計画においても空き店舗活用件数を目標数値としており、これを達成する事業として「古民家等再生活用事業」「伊賀市事業創出・事業承継促進事業」が位置付けられています。 令和3年度の起業者数の増加は、空き店舗活用と創業支援事業の成果として、中心市街地活性化の目標達成に向けて評価されています。</p>
5	3-5商工業・産業立地	<p>基本的な質問ですが、企業立地について、R3は新規1社の誘致に成功とあり、同時に問い合わせも多いとあり本市への注目度が高い。現状は新規進出の産業用地がなく南部丘陵地の開発が待たれるところで、それらを見据えたインセティブの見直しと理解してよいのか。</p>	<p>南部丘陵地の開発計画はもちろん念頭にありますが、現在の当市の状況や周辺自治体の同様の施策等と対比し、企業のニーズも考慮したうえで、製造業以外の立地促進も含めて、より時代に即したものになるよう見直しを検討しています。</p>
6	3-6就業・起業	<p>高齢者の就業相談について各地域での相談参加者が少ないとあるが、市内全体でのシルバー人材センターへの加入や高齢者の就業率の現状から効果検証をすることは可能でしょうか。各地域の相談会の参加者数にこだわらずとも、就業につながる相談会形態の見直しなどシルバー人材センターと協議などはされているのでしょうか。</p>	<p>シルバー人材センターの加入についてはすぐにわかりますが、高齢者の就業率は国県の統計に頼らざるを得ず、結果が出るまで長い時間を費やしますので、事実上検証は難しいです。 相談会形態については、シルバーワークプラザで行っている相談では多くの方が参加されており、大きく見直す必要はないかと考えていますが、会員拡大についてはシルバー人材センターが設置している検討会に市も参加して協議しています。</p>

7	3-6就業・起業	<p>合同就職説明会では、効果として学生と企業の参加数をもってマッチングが図れたとあり、さらに双方の参加の増加を図ることが課題となっている。有効求人倍率は1を上回っているが求人企業は人材不足という、総じてアンマッチングが生じている状態。特に新卒者においては求める業種が市内になく、都市部に流出してしまうことがあるようだが、それら実態の要因について分析するための情報収集ができる体制にあるのか。双方参加数を増やすことでマッチングを増やす手法も検討実践すると改善案提示されているが、今後は説明会后、実際にマッチングした人数を把握しサブ指標を設けるなどし事業効果を検証することは可能でしょうか。</p>	<p>合同就職説明会は、市のほか、商工会議所や商工会、高校、ハローワーク、労働基準監督署、地元の企業の代表などで作る労務対策協議会の事業で、そちらで現状把握や分析を行い、情報を共有しています。そうした中、参加した人のうち、内定者数は何人か把握しているのでサブ指標とすることは可能ですが、卒業時期によるので、2年先までわからない場合があること（例えば大学3年生が参加することもある）、追跡調査を行うにも限度があること（採用の成否、受験の情報などは個人情報などの機密事項も多い）、地元からだけの採用でないこと（UJIターン、移住）などの課題はあります。</p>
8	5-3学校教育	<p>個別の教育支援計画・指導計画の作成割合、情報モラル学習を実施する学校の割合の成果指標（KPI）について、計画策定時（現状値）から100%の指標を設定する理由は何でしょうか。</p>	<p>「個別の指導計画」は、児童生徒の実態に応じた指導をきめ細やかに行うためのものです。また、「個別の教育支援計画」は、乳幼児期から学校卒業後までを通じ、一貫して的確に支援を行うためのもので、保護者の承認を必要とするものです。どちらの計画も、特別支援教育を必要とする児童生徒について、一定の時間をかけて児童生徒の実態や教育的ニーズを的確に把握し、保護者や関係機関とも連携しながら計画を作成します。これらの計画は、年度ごとに内容を見直したり、必要に応じて内容を見直すこととしているため、成果指標の目標値を100%としました。</p> <p>また、「情報モラル教育」については、児童生徒を対象に1人1台タブレットを導入したことからも重要性が増しています。その内容は、特定の教科のみで学習するのではなく、様々な教科、領域等を通して学習することとされています。そのため、各学校においては、児童の実態や発達段階に応じて年間指導計画を作成し、指導することとなります。特定の教科書や特定の教材がないため、年度当初にたてた指導計画の進捗状況が分かりにくいものであることから、全ての学校で確実に実施されるように担当課で指導するとともに、「情報モラル教育を実施する学校の割合」を成果指標とし、目標値を100%としました。</p>

9	5-5生涯学習	<p>成果指標の進展度（図書館年間入館者数、児童書の年間貸出冊数、体験事業参加者数）と事業の進捗がかみ合っていないように感じます。目標値に達していないにもかかわらず、事業の進捗は「計画通り進めている」とありますが、その理由を教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館活動については、目標値を新図書館基本計画に定める床面積から算出した入館者数としており、今後、新図書館の開館によりこれらの数値を達成するべく、現在、図書館に興味を持っていただける事業の取り組みを進めていることから、「計画通り進めている」とした。 ・子ども読書活動については、令和3年度はコロナ禍における休館があったが前年度より増加しており、目標値に向かい実績の積み上げが見込めることから「計画通り進めている」とした。 ・体験事業参加者数については、新型コロナウイルスという要因でKPIに影響が出ています。事業実施については計画的に進めています。
10	5-5生涯学習	<p>「成果指標（体験事業参加者数）」と「課題（今後、指導者として実践していただくことにつながるよう、受講者に対する働きかけに努めたいと思います。）」との関連が分かりにくいです。感染症対応による事業縮小を考慮して読み取らねばならないのでしょうか。</p>	<p>ご指摘により、「効果検証」「事務事業の改善案」欄を見直したいと考えます。</p>
11	5-5生涯学習	<p>基本的な質問ですが、青少年健全育成の人材育成事業は、効果、課題共にある指導者を育成することを前提に実施されているのでしょうか。</p>	<p>ご指摘により、「効果検証」「事務事業の改善案」欄を見直したいと考えます。</p>